

カーライフの“万が一”をしっかりと記録

# ドライブレコーダー



もろコミ ご契約のおクルマに **無料サービス**

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み **8,000円** (※) に含まれています。さらに、車を返却する必要もありません。

※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

## 「私は、一日266円で

(※)



=



+



+



+



※ボーナス月加算あり

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません

## 車に乗ってます」

カーコンビニ倶楽部 〒108-0075 東京都港区港南2-11-19 大滝ビル  
☎0120-0120-55



林 成治 Seiji Hayashi  
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業  
1981年4月:プロミス株式会社入社  
2008年4月:同社執行役員就任  
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任  
2008年10月:同社代表取締役就任  
2009年8月:バル債権回収株式会社 常務取締役就任  
2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任  
2011年1月:同社取締役退任  
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任

ところで、近年、今まで経験したことのない異常気象が世界の各地で起こっている。つい先日、北陸や北海道の吹雪の中で、道を失った車の運転手が車内で凍死した。気温の上昇や大雨、干ばつ、などの災害は、今後ますます深刻化するであろう。これは一言で言うと、地球温暖化であり、現在では世界各国を巻き込んだ対策が協議され始めた。京都議定書の後継として、2015年には国連気候変動枠組条約が採択され(パリ協定)、173か国が少しずつ足並みをそろえ始めた。

私は、冒頭のデジタル症候群と地球温暖化現象もその根源の一つであると考えている。人間は、自然の中で生きる動物であり、人間が助け合うことでサービスの仕組みが生まれるということである。我がカーコンビニ倶楽部も、時代の最先端を行くよりは、人々が幸せを感じる事が出来る事業化を徹底したいと考えている。

この状況の中で、車を運転する楽しみは奪われ、機能ばかりが優先され、車は単なる移動体の役割しかなくなってしまった。

若者をはじめとしたドライバーのみならず、車の窓を大きく開けて流れる季節の風を感じ、山々の景色に目を向けながら、軽やかに回転するエンジンの音を聞くようではありませんか。

『私たちを取り囲むデジタル化現象』

今どきの若者といえば、タブレット端末やスマートフォンで数々のアプリを使いこなせるばかりか、ゲームをしながら映画を見たり、その内容を友達とテキストをやり取りしながらグループでSNSに投稿したり...ともかくにも究極のマルチタスクを行う。この数年、こうした若者たちを、「デジタルネイティブ世代」と持ち上げる風潮があったが、一方で、深刻なデジタル中毒ではないか、という意見も出始めている。私に言わせれば、もともと人間として、バランスを欠き、文字が書けない、言葉が話せない、さらには相手の気持ちが変わらない、といったマイナスの評価のほうが高かった。

デジタル中毒になると、ヘロインなどの薬物中毒と同様の作用が脳の発達に影響を及ぼす、つまり、小さなスマホでも油断すると、人間としての発育に大きな障害をおこすのではないかと危惧している。今では、9割9分の運転者が小さなカーナビの地図を見ながら、音声ガイダンスに従ってドライブをしている。車の中は、スマホから流れ出る音楽、無論、車にも追突などを避けるための安全装置が万全にセットされている。